

ブレインバンクに献体をご了承頂いたご家族皆様へ  
(研究に関する情報)

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。  
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	網脈絡膜の加齢による変化：加齢黄斑変性とアルツハイマー病の関連性の検討 (福祉村病院倫理委員会承認番号#402)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 研究員 赤津 裕泰 (名古屋市立大学医学研究科 教授)
他の研究機関および各施設の研究責任者	名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学准教授 安川 力
本研究の目的	加齢黄斑変性は先進諸国における成人失明の主要原因です。しかしその発症機序はあきらかになっていません。 近年、加齢黄斑変性患者のドルーゼン中（加齢黄斑変性の原因のひとつと考えられています）にはアミロイドβという物質が高頻度に存在していることがわかってきました。アミロイドβの沈着が病態に関与する疾患の代表にはアルツハイマー病があります。 今回我々は、アルツハイマー病と加齢黄斑変性の関連に注目しました。 福祉村病院でブレインバンクに登録されている患者さんの脳や網脈絡膜を調べることでアルツハイマー病をはじめとした神経疾患と加齢黄斑変性との関連を評価し、加齢黄斑変性の病態解明をめざしています。
対象者該当期間	福祉村ブレインバンクに保管されている全症例。
研究の方法	1. 網膜色素上皮密度の評価 採取された黄斑部付近の網膜色素上皮を免疫染色し細胞間のタイトジャンクションを同定する。それにより、網膜色素上皮細胞が単位面積あたりいくつ存在するかが明らかになる。そこから推定される細胞密度を算出する。網膜色素上皮細胞の密度と加齢、あるいは網脈絡膜疾患の有無、その程度などとの相関を検討する。 2. 網脈絡膜におけるドルーゼンおよび加齢黄斑変性関連タンパク質発現の評価 組織切片から黄斑部付近のドルーゼンの有無、その密度を検討する。 アミロイドβあるいはアミロイド前駆タンパク、アポリポタンパク、補体などの免疫染色をおこなう。 すでに解析されている、脳標本のデータ (amyloid plaque) や生前の血液

	検査所見（血中や髄液中のコレステロール、リポタンパク）と照らし合わせて、加齢黄斑変性関連タンパク質の発現が、アルツハイマー病や他の神経疾患における脳での特定のタンパク質の発現との相関を検討する。
個人情報の取扱い	長寿医学研究所個人情報管理者によって適切に管理される。
お問い合わせ先	名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 TEL 052-853-8527 (内線 8527)
備考	